

Title	<大會抄録>明清時代の郷鎮志と地域社會
Author(s)	森, 正夫
Citation	東洋史研究 (1996), 55(3): 631-631
Issue Date	1996-12-31
URL	http://dx.doi.org/10.14989/155009
Right	
Type	Journal Article
Textversion	publisher

明清時代の郷鎮志と地域社會

森 正 夫

現存する舊中國郷鎮志の約四分の三を占める江南デルタの作品の編纂年代は、一種が宋代に、他の一九二種が明清・民國期に、また後者の大半が清代の乾隆年間以降に屬する。報告者はすでに拙稿の一つで、明代編纂になる四種の郷鎮志の検討から、郷鎮志が縣以上の行政區を對象とする他の方志とは異なり、市鎮を基盤とする地域社會に居住する編者の自發的意志と自らの調査や資料収集のみに依據し、かつ當該の地域社會で編者の直面している切實な問題の解決が編纂の内容的な基軸となつてゐることなどの特徴を確認した。た

だ、郷鎮志の編者の地域社會における位置やそこでの問題意識、及び郷鎮志編纂の經濟的基礎などについては未解明な點を多く殘してゐる。清代については、別の機會に、いくつかの郷鎮志の序跋に即して、上記の特徴がそのまま繼承されていくこと、その半面で、王朝國家の行政區畫の序列とこれに對應するところの縣志から一統志に至る方志の系列とに對する編者の認識が鋭敏になつてゐることを豫測したにとどまる。本報告では、とくに清代の郷鎮志若干種の内容に即しつつ、明代郷鎮志の特徴の繼承の確認、上に記した未解明の點についての検討及び豫測の檢證を行い、あわせて明清時代の郷鎮志とその基盤とする地域社會の性格に關する概括を試みたい。この際郷鎮志の少なくない部分が稿本のままであり、抄本の形で傳へられてゐることなどに示されるその編纂過程の特色にも注意する。